

道博協ニュース

第18号

発行 昭和62年 3月31日
発行所 北海道博物館協会
(事務局)
札幌市白石区厚別町小野幌
北海道開拓記念館内
電話 011-(898)-0456

第二十六回北海道博物館大会 六月十二日～十三日、増毛町で開催!!

大会開催地紹介

増毛町

昭和六十二年度に開催する第二十六回北海道博物館大会は、留萌管内の増毛町において開催すべく準備を進めております。日程は六月十二日(金)と十三日(土)の予定で、すでに昨年十二月九日増毛町役場において本間町長、黒瀧教育長、岡村公民館長などと当協会の中川会長、関事務局長などで開催にともなう打合せを終えております。

留萌管内での北海道博物館大会の開催は初めてであり、管内の道博協加入館も、現在は「増毛町エネルギー科学館」のみであります。しかし、この第二十六回大会を契機に、管内の加入館や個人会員が増えるものと、大いに期待いたしております。

開催要領と参加申込書は、五月中旬までに発送します。是非、各館園および個人会員など多数の参加と活発な討論を期待しております。

増毛町の歴史は古く、宝永三年(一七二六)下国家の商場知行地、宝暦五年(一七五五)村山傳兵衛により場所請負が始まり日本海岸における拠点となりました。また明治三十年に留萌支庁が置かれ増毛、留萌、苦前、天塩、中川、上川の六郡を統轄。大正三年増毛支庁は、留萌に移り留萌支庁と改称され今日に至っております。

増毛町は美しくそびえる磐寒岳・郡別岳の連峰と、無限に広がる日本海にいだかれた暑寒別道立公園(昭和三十七年指定)の重要な観光地区でもあります。面積は東西三十四km、南北二十五kmで約三十四万四千km²あり、沿岸は豊富な魚族に恵まれ、海水浴の名所でもあります。温暖な気候で、水稲、果樹、果菜栽培も大変盛んな町であります。

増毛町エネルギー科学館

昭和五十八年五月に開館した「見る・聞く、学ぶ・遊ぶ、体験する」科学館で、科学する少年や少女達のエネルギー基地でもあります。

日本海の荒れる海の波力発電、強い風による風力発電、そして、ふりそそぐ太陽熱発電など未来の自然エネルギーが展示の中心となっております。そして町内には、太陽熱の温水プール、風力発電の床暖房施設などがあり、町自体が自然エネルギー実験室なのです。

増毛町大字暑寒沢村77の1
(〇一六四五)三一二三四七
《所在地・電話》

第三十五回全国博物館大会 今秋、釧路市で開催

日本博物館協会主催による第三十五回全国博物館大会は、十月六日～七日の両日釧路市において開催されます。

北海道における全国博物館大会は、昭和三十一年の第五回釧路大会、同四十年の第十回函館大会、同四十六年の第二十回札幌大会にひきつづき、四回目の開催となります。全国の博物館関係者が一同に参加する数少ない機会でもあり、開催地の釧路市とともに北海道博物館協会も準備等に協力し、第三十五回全国大会の成功をめざしております。

日本における博物館の今日的課題を討論するまたとない機会ですので、日博協加盟団体はもとより道博協加入館園なども広く参加願います。

大会日程・昭和六十二年十月六日(火)～七日(水)

大会会場・釧路市婦人会館

オリエンタルホテル

大会参加料・六千円

大会参加定員・三百人



館園紹介

利尻町立博物館

利尻町立博物館は、昭和五十五年五月十一日に開館いたしました。

「自然と海と人間の調和」

を博物館の基本テーマとして、古代から現代にいたるまでの利尻に生きた人々と海とのかわりあい、そこではぐくまれてきた歴史と文化を紹介、さらに、未来の利尻のあるべき姿を考え創造する場として機能することを目的としております。

展示の内容は、館の基本テーマを受けて六コーナーから成り立っています。ロビーの(一)ようこそ博物館では、鱈釣



の復元し展示しています。(五)

漁業の主体をなしたハコ櫓の川崎船を、沖合に漕ぎ出す勇ましい姿を三分の一に縮小し館メインの展示物としています。(二)めぐまれた自然では、最北の国立公園内に位置する利尻島の自然環境を剝製やパネルで紹介しています。(三)利尻町のう・今日・あしたでは、利尻のうつりかわりをダイジェストで紹介しています。四海に生きるでは、利尻に人が住みはじめてから現在に至るまでの人々と海とのかわりあいを具体的に表現しています。古代では、亦稚貝塚出土の土器、骨製品(いずれも道指定文化財)を、ニシン漁時代では、当時の漁夫だまりを復元し展示しています。

利尻の海は、島をとりまく海というものを科学的視点からとらえ、海流模型や周辺で見られる魚の剝製などを展示しています。(六)海の人々は、海を生活の基盤として生きている現代の人々のあらゆる姿を写真パネルで表現しています。常設展示は、漁業に関する展示物が多くながちなので、他の分野の資料は、期間展示、特別展示、マイ・コレクション展などを通して紹介しています。この場所はロビーの一角で、取り外し可能なパネルで区切り、展示に利用できるようにしています。

博物館活動では、四季におこなう自然に親しむ会、郷土の歴史、自然を学ぶ博物館講座(年四回)、小学生を対象にした集会活動などを実施しています。屋外には、植物園とニシン漁業に使われた桟船を展示しています。ロビーには魚読み方クイズ、地域の情報を新聞記事や町発行の図書類で紹介し、親しみあまれる博物館をめざしています。

所在地・利尻郡利尻町仙法志 本町一三六番地
電話・〇二六三八(五)四二一
開館時間・九時～十七時
休館日・月曜日(祝祭日の時は翌日)、十二月一日～四月三十日は冬期休館、七月～八月は夏期無休開館
入館料・高校生以上の大人二百円、小・中学生百円
交通案内・宗谷バス仙法志字本町下車、徒歩十分
(利尻町立博物館 学芸係長・西谷栄治)

第三十四回全国博物館大会 福岡大会報告

日本博物館協会による全国博物館大会は、昭和六十一年十一月十三～十四日、九州の福岡市において「我が国博物館の今迄の歩みと今後の展望」を大会テーマとして開催されました。なお開会式に続き顕彰式が行なわれました。

道内の顕彰対象者は、永年勤続として野村崇・矢島晋・矢野牧夫氏。その他、釧路市立博物館へ資料寄付のあった佐藤慶二氏(川口市)でした。

道内の顕彰対象者は、永年勤続として野村崇・矢島晋・矢野牧夫氏。その他、釧路市立博物館へ資料寄付のあった佐藤慶二氏(川口市)でした。

常設展示には、函館出身の田辺三重松など道南ゆかりの作品が展示され、鷗亭記念室では書と東洋美術コレクションが展示されております。なお、三月十五日団体会員として道博協に加入いただきました。

所在地・電話など)
函館市五稜郭町37番6号
(〇二三八)五六六三二一
開館時間・10時～17時
休館日・月曜、祝日の一部

函館市五稜郭町37番6号
(〇二三八)五六六三二一
開館時間・10時～17時
休館日・月曜、祝日の一部

館園動向

◆北海道立函館美術館 オープン

函館や道南の美術ファン待望の道立函館美術館が、昨年九月二十日に開館しました。

道立函館美術館は、五稜郭公園に近い旧函館商業高校跡地に昭和六十一年三月、総工費十一億八千万円で完成。

玄関正面には、プールの「自由」、ホールにはルノワール作「勝利のウィーナス」、ロダン作「衣をまとったバルザック」など西洋近代彫刻が展示されております。

館 園 紹 介

釧路市青少年科学館

市街地では珍しい海跡湖の「春採湖」が一望できる春採公園の一角に建つこの建物は、昭和三十六年北海道の科学技術振興の一環として、次代を担う青少年に対し、科学技術の啓発を通じて開発意欲を高め、揚することを目的に道費補助事業で建設され、昭和三十八年六月十五日開館しました。



昭和五十年には、理工系博物館相当施設の指定を受け、昭和六十年九月一日有料入館者百万人を迎えており、開館以来二十三年が経過しました。建物の構造は、鉄筋コンクリ



一ト二階建(塔屋二階)、延床面積は約二、一六〇m²で、一階は物理・化学の実験室、工作室等。二階には展示室、プラネタリウム室(ドーム直径十m)、無線室等、塔屋二階に天文台などが配置されています。展示の内容は、展示室面積約七四六m²を、十三コーナーに分類し、観覧者が展示品を操作したり触れたりしながら、楽しく遊びの中から科学の原理や法則を理解できる展示構成になっています。展示資料はエネルギー及びその資源二〇点、光・音の世界十六点、力と運動十一点、電気の世界十二点、宇宙・天文八点、電気・通信二四点、交通・産業

二二点、気象四点、遊び・その他十八点の合計一三五点あります。この常設展示の他に特別展もこれまで十一回開催しています。

入館者に人気のあるプラネタリウムは、国産中型投影機を設置し、シナリオは年六回(三ヵ月毎)、三〇分の自作オリジナルを製作し、解説ナレーションはNHK釧路放送局指導のもとに市内各高校放送部員の参加協力により実施しています。

昭和三十九年から実施の理科実験学習は、市内小中学校児童・生徒が、科学館の実験室やプラネタリウムを利用し学習するもので、児童・生徒が必ず実験器具にふれ、自ら体験し観察する方法をとっています。小学校は市内二七校、六年生全員を対象に、物理・化学・天文をテーマに実施、中学校は市内十四校を対象に天文学習を実施しています。

その他科学普及事業として、小学生から一般市民までを対象に、公開講座、科学館の実験室、天文台を開放して行う体験学習等の実施も進められています。

《釧路市青少年科学館概要》
所在地 釧路市春採湖一丁目七号
電話：〇二五四(四)六二二五
開館時間・九時～十七時(火・日曜日、入館は十六時三〇分まで)
休館日・月曜日、祝祭日、年末年始(十二月三十一日～一月五日)、館内整理日(月の最終の火・木曜日のうち月末に近い一回)
入館料・大人百五十円、高校生百二十円、小・中学生八十分、科学館通下車、徒歩五分
(釧路市青少年科学館 次長・久保田辰雄)

◆神恵内村郷土資料館
四月八日オープン
神恵内村教育委員会として道博協に加入いただいています。が、待望の郷土資料館が開館することになりました。(〇一三五)七六一五〇一

《旅行先》ナホトカーハバロフスクイイルクーツクリストビアンカーノボシビルスク

《視察博物館等》ハバロフスク郷土誌博物館、同地方科学図書館、イルクーツク地誌博物館、ソビエト科学アカデミー・バイカル湖沼学研究所、バイカル湖博物館、ノボシビルスク郷土誌博物館、科学研究所都市アカデムゴロドク、キ

《旅行費用》約二十五万円

《旅行人員》十五名～二十名 (学芸職員部会事務局)

道博協学芸職員部会の『ソビエト・極東博物館視察研修旅行』の募集、学芸職員部会設立当初から計画されておりました。ソビエト・極東地区博物館視察研修旅行が、三月二十八日の第四回役員会で道博協事業として承認されました。旅行の概要は次のとおりですが、定員二十名になり次第締切りますのでお早く申込み下さい。

《旅行期日》昭和六十二年八月二日(日)～十四日(金)

《旅行先》ナホトカーハバロフスクイイルクーツクリストビアンカーノボシビルスク

館園紹介

稚内市青少年科学館

日本最北端の科学館である当館は、宗谷広域市町村圏地内の青少年の科学知識の普及啓発及び科学教育の振興を図ることを目的に、昭和四十九年七月二十八日に開館しました。建築面積一、三六〇㎡と小規模な科学館ですが、稚内市の特性（最北端・南極犬訓練基地など）を生かし、かつ、子供達のニーズ（参加型科学館）に応える科学館を目指し、頑張っております。

そり、南極基地パノラマ、雪上車等。(二)稚内市と海洋開発

部門：(一)目的・原子力や宇宙

開発とともに、ピックサイエンスの一つとして国際的にも脚光を浴びている海洋開発に目を向け、稚内市の未来の都市計画とあわせて関心を深める。○内容・未来の稚内市パノラマ、稚内漁業の発達、未来の海洋開発等。(三)科学部門：(一)目的・科学の基礎的原理を理解させることにより、さらに進んだ科学の応用を知り、発想の転換を図る。○内容・星のシャンドリア、電光落書板、ボールの運動、ロボット、永久磁石、テレビ電話、万華鏡、クイズコンピュータ等々です。

会の他、臨時観望会も実施しております。

四、教室Ⅱ科学・物理実験

室、講堂などがあり、夏休み期間に科学・生物実験教室やパソコン教室など小中学生向け事業を実施しております。以上、当館の施設・設備の説明ですが、今後はより一層施設の充実を図っていきたいと思っております。全道各地の先輩諸館の特段なるご高配・ご協力をお願いいたします。

稚内市青少年科学館概要

所在地・稚内市ノシャップ二丁目ノシャップ公園内

電話・〇二六(三三)二五二〇〇

開館時間・九時～十七時

休館日・月曜日、子供の日と文化の日を除く祝日、十二月三〇日より一月六日

入館料・展示室は大人百五十円、小中学生五十円、ファミリー展示室と同額

交通案内・宗谷バスでノシャップ下車、徒歩七分

(稚内市青少年科学館

技師・川野忠司)

日本博物館協会北海道支部

加入館園一覧

日本博物館協会の団体加入の館園は、現在のところ四十二施設です。未加入館園の加入をお願いします。(一)内は、館園長、代表者名です。アイヌ民族博物館(山丸武雄)、阿寒和琴博物館(片岡義典)、旭川市立旭川郷土博物館(那須和雄)、旭川兵村記念館(菅原敏夫)、網走市立郷土博物館(高橋永喜)、網走市立郷土博物館分館・網走市立モヨロ貝塚館(高橋永喜)、網走市立美術館(高橋永喜)、浦河町立郷土博物館(吉野英治)、浦幌町郷土博物館(木村旭)、小樽市博物館(高井隆夫)、帯広百年記念館(松橋時二)、オホーツク水族館(本間保)、上士幌町ひがし大雪博物館(今野幸夫)、上ノ国町郷土館(布施潤一郎)、釧路市青少年科学館(北村憲乃祐)、釧路市立博物館(澤四郎)、五稜郭タワー史蹟館(中野真輔)、札幌市資料館(木原武男)、札

幌市青少年科学館(荒井徹)、札幌市円山動物園(金田寿夫)、札幌市円山動物園協会(中川敏)、札幌彫刻美術館(原子修)、士別市立博物館(庄司道夫)、斜里町立知床博物館(藤田信夫)、市立函館博物館(加納裕之)、仙台藩白老元陣屋資料館(今野邦紀)、大雪山ベアセンター(渡辺直喜)、苫小牧市科学センター(大西正男)、根室市博物館開設準備室(内山隆)、美幌町郷土資料館(大谷重夫)、北網走北見文化センター(平井正史)、北海道開拓記念館(渡邊左武郎)、北海道開拓の村(松田幸男)、北海道大学農学部附属博物館(森樊山操)、北海道立近代美術館(植村敏)、北海道立三岸好太郎美術館(工藤欣弥)、穂別町立博物館(桜庭勝美)、増毛町エネルギー科学館(久郷昌夫)、室蘭市青少年科学館(宮森健一)、紋別市立郷土博物館(藤江治)、夕張市石炭博物館(青木隆夫)

館園紹介

苦小牧市科学センター

昭和六十年十一月一日に施設の名称が変り、「苦小牧市青少年センター」から「苦小牧市科学センター」になりました。

前身の青少年センターは、科学の他、考古、民俗、歴史等の分野をも含めた博物館として昭和四十五年一月に開館、皆様方のご指導、ご協力をいただきながら、十六年間活動を続けてまいりました。



昨年の秋、当市の新博物館の完成に伴い、考古、歴史、民俗、自然などの分野を分離

して、理工学と天文の分野を主軸とする科学館として「科学センター」の名で再出発いたしました。利用者層の拡大を願って、施設名に「青少年」をつけておりません。

当センターの事業は、科学展示、実験実習、プラネタリウムの三部門構成で互いに関連性をもたせて実施に移しております。

科学展示部門では、展示面積三六〇㎡を増設中です。今までの博物展示室を科学展示室に改修し、新しく四つのコーナーを計画、現在整備中です。創造力コーナー、科学技術コーナー、科学情報コーナー、天文学宇宙コーナーの四つ



です。既にできあがっている創造力と科学技術のコーナーは四月から公開しており、現在は科学情報コーナーを整備中です。全ての完成は、六十二年になります。

科学技術コーナーには、画像情報通信システムのスケッチホンやスケッチボード、気象衛星画像の受信、新素材形状記憶合金などを展示し、創造力コーナーでは、組木、魔方陣、図形パズルなどを展示しております。

現在準備中の科学情報コーナーは、コンピュータを使って情報を提供するものです。予算の関係もあって、企画からソフトプログラムの作成まで全て職員が手作りする中で作業を進めています。大変な作業で苦勞しておりますが、当センターのクラブ員にも手伝ってもらいながら頑張っております。

実験実習部門には、実験実習用の四教室の他、天体観測室があり、学校教育との連携事業としての「一日科学センター」を中心にマイコン、電

子、工作、天文などのクラブ指導、天文教室などの行事も実施しております。

今年の四月から「親子日曜教室」を開設しています。一般の入館者が気軽に参加でき、親子が対話しながらいっしょに学ぶことをねらっています。日曜日毎に年間四十八回開き、内容は簡単な化学実験や科学工作などで、月毎に変わります。参加者に大変喜ばれている行事の一つです。

プラネタリウム部門では、季節に応じた春夏秋冬の四番組の他、七夕特集や十五夜特集など、毎年六・七つの番組を作成して放映しています。最近では天文チームの影響もあってか、プラネタリウムは大変人気があります。

《苦小牧市科学センター概要》所在地・苦小牧市旭町三丁目 一番二二号

電話・〇一四四(三三)九二五八
建築面積・一、一〇七・〇〇㎡
延床面積・二、四九六・七七㎡
開館時間・展示室九時三〇分
一六時三〇分、実験室九時十七時

休館日・月曜日、祝日(この日、文化の日を除く)、十二月三〇日・一月六日
入館料・無料
交通案内・国鉄苦小牧駅より徒歩二〇分

アイヌ民族文化財専門職員
研修会「アイヌ文化セミナー」開かる

北海道の社会教育振興のための補助金により、道教育委員会・北海道ウタリ協会・白老町教育委員会・道博協・白老民族文化伝承財団が実行委員会を組織して計画した標記のセミナーは、昭和61年8月7日・9日の三日間、白老中央公民館とアイヌ民族博物館を会場に開かれました。道内外から招かれた10人の講師が、言語学・歴史学・文学・民俗学・民族学など広い分野からアイヌ文化について講義をされるという本格的な研修会でした。今回はアイヌ民族博物館のみなさんに大変お世話になりましたが、この研修事業は、昭和62年度にも実施されることになりそうです。

館園紹介

北海道立三岸好太郎美術館

「たったひとりの作家の仕

事が、これほど強い感動を与
えるものだと知らなかった
……」初めて三岸美術館を
訪れた方が、よくこんな感想
を寄せて下さいます。三岸好
太郎の作品を見るために、わ
ざわざ本州方面から来られる
方がたも少なくありません。

三岸美術館は、道立近代美
術館の隣、知事公館の木々に
囲まれた一角にあります。幅
ひろい内容のコレクションを
誇り、また次つぎと新しい企
画展を開催する近代美術館と
は全くちがった性格をもつ個
人作家美術館です。近代美術
館のような総合美術館では、
多くの作家の作品を一点ある
いは数点ずつ系統的に展示し
て、ひとつの時代や流派など
の特徴を明らかにします。

これに対して、個人作家美
術館では、ひとりの作家の初
期から晩年までの作品を一堂
に展示して、その作風の変遷
を見られるようになっていま

す。作家がその生涯をかけて
歩んだ道すじをたどるときに
生まれる感動は、初めにご紹
介したとおりです。

三岸好太郎（一九〇三—
九三四）は、札幌に生まれ、
十八歳で上京、二十歳で画壇
にデビューしてからわずか三
十一歳で亡くなるまでの間に、
旺盛な制作を続け、日本洋画
史上に大きな足跡を残した画
家です。とくに死の直前、一
九三三—三四年に展開された
前衛的な作品群は、五十年後
の今日でも新しさを失ってい
ません。

一九六七年、夫人の三岸節
子さんから遺族から、三岸好
太郎作品二、〇点が北海道に
寄贈され「北海道立美術館（三
岸好太郎記念室）」が開館し
ました。一九七七年、道立近
代美術館の開館にともない名
称を変更、さらに一九八三年
知事公館公開区内の現在地に
新築移転、現在に至っていま
す。

新築された美術館は、三岸
の死後に完成した彼のアトリ
エのイメージをとり入れ、常

時六十余点の三岸作品が展示
されています。年間四—五回
展示替を行いますが、代表
的な作品は館外に貸し出す時
（現在バリのボンビドー・セ
ンターに四点貸出中。三月ま
で）をのぞいてほとんど変わ
らず、いつでも初期から死の
直前にいたる三岸の画業の全
貌をごらんになることができ
ます。

また、今年度から「館外作
品の特別展示」が始まり、当
館以外に所蔵されているす々
れた三岸作品を毎年すこしずつ
ご紹介していくことになり
ました。第一回の特別展示に
は、節子夫人と長女陽子さん
のご厚意により「女の顔（絶
筆）（一九三四）」と「自画像」
（一九二二）を借用、受託中
の「陽子像」（一九二七頃）と
あわせて三点をご紹介して好
評を得ました。音響効果の素
晴しさと親しみやすい雰囲気
でこれまた好評の美術館コン
サートは、すでに十回をかぞ
えています。

三岸美術館は一九八七年六
月に開館十周年、道立美術館

時代から通算して二十周年を
迎えます。今後も一層豊かな
活動を展開していくつもりで
す。

《北海道立三岸好太郎美術館概要》
所在地・札幌市中央区北二条
西十五丁目
電話・〇二（六四四）八九〇一
開館時間・十時—十七時
休館日・月曜日、祝日（文化
の日を除く）、年末年始
入館料・無料
交通案内・地下鉄東西線「西
十八丁目」下車、徒歩十分
（北海道立三岸好太郎美術館
学芸員・井上研一郎）

受贈図書一覧（発行年月）
◇苦小牧市博物館第一回特別
展・苦小牧地方の有形文化財
（60・11）◇釧路市博物館解
説シリーズ6・春採湖◇札幌
市円山動物館昭和60年度事業
概要◇上土幌町ひがし大雪博
物館研究報告第八号◇土別市
立博物館収蔵図書件名目録◇
土別市立博物館報告第四号◇
市立名寄図書館郷土資料室・
名寄市郷土資料報告第一集◇
苦小牧市博物館年報第一巻◇

俗物語（61・10）

苦小牧市博物館常設展示資料
目録◇苦小牧市博物館第二回
特別展・地図にみる苦小牧の
発展◇利尻町立博物館年報第
五集◇北海道教育委員会・市
町村における生涯教育の推進
状況◇北海道教育委員会・北
海道生涯教育関連事業概要◇
岩手県立農業博物館・水稲品
種変遷の冷害史からの考察
（61・3）◇白老民族文化伝
承保存財団IIアイヌ民族博物
館・ポロシルンカムイになつ
た少年◇丹青総合研究部・文
化空間研究（61・4）◇ひが
し大雪博物館・ひがし大雪だ
より17◇北川芳男・博物館と
ともに（61・6）◇アイヌ民
族博物館第三回企画展・東北
地方とアイヌ文化◇釧路市立
博物館々報30号◇苦小牧市
博物館第四回特別展・苦小牧
の鳥たち展◇北海道立近代美
術館・比叡山と天台の美術
（61・7）◇苦小牧市博物館
だより3◇日本博物館協会・
博物館研究21巻8号（61・8）
◇北海道立近代美術館・ポテ
ロ展目録（61・9）◇室蘭風

俗物語（61・10）

俗物語（61・10）

俗物語（61・10）

館園紹介

北海道立旭川美術館

北海道立旭川美術館は道立の地方美術館の第一号館として、道北地方の中心地旭川に昭和五十七年七月に開館した。道立の美術館としてはそれまで札幌に北海道近代美術館と北海道立三岸好太郎美術館が既にあつたが、広大な面積を有する北海道の社会教育の一環として、道北、道南(昭和六十一年九月に道立函館美術館が開館)、道東などに地方美術館を建設する構想があり、当館はその先がけとして設立された。

美術館は旭川市中心部にある市民の集いの場、常磐公園の西側に位置し、明るいレンガ色の平屋建築である。敷地面積は四、三二七㎡、建築面積は二、五六四㎡。館正面にはモニュメントとしてブルーデルの「雄弁」(一九三三年、高さ三、七五m)が置かれ、まず来館者の注意をひく。館内に入ると、自然採光を取り入れたロビー(三三二㎡)に

は中原悌二郎や木彫作家による彫刻作品の常設コーナーがある。中原悌二郎は旭川ゆかりの彫刻家で、日本の近代彫刻の代表的作家の一人だが、その全作品十一点のほかに、堀進二の「中原悌二郎像」なども展示されている。このほか、展示室(八八一㎡)、講堂(一一六㎡)、ボランテイヤによる喫茶コーナーなども利用しやすいように機能的に配置されている。

当館の作品収集活動は、道北の地域的な特性をふまえておこなわれているが、次の二つの柱によって現在それが進められている。一つは道北地方にゆかりの深い作品の収集で、道北の美術の草分け的存在の高橋北修、また抽象美術の分野ですぐれた活躍をみせた難波田龍起、山口正城、因藤壽らの秀作が収集されている。また、このほかに道北の美術を知るうえで重要な作家の作品も系統的に収集している。第二の柱は木の造形作品中心とした道北地域では家具、

木工産業がさかんであり、この特性をふまえたユニークなものである。木彫や木工芸に限らず、現代美術に近年著しい特徴としてみられる木による立体造形など多様な作品が収集されている。この分野は全国の美術館のコレクションでもめずらしいもので、今後木工芸から現代クラフトまで、また木彫から立体造形までの多彩な木の造形作品を収集してゆく予定である。展覧会活動は、一つの展示室をフルに利用して年八回展覧会を開催している。海外の巨匠などの作品を紹介する海外展、近、現代美術を中心とした日本美術の展覧会、木の造形作品や道北出身のすぐれた作家を紹介する展覧会、道立近代美術館との提携によって行なわれる巡回展や、所蔵作品を中心とした道北の美術展などさまざまな分野の幅広い活動を行なっている。中でも、木の造形作品を紹介する「木の美」シリーズは毎年一回開かれ、木の美術館としての特徴づけを

試みている。このほか教育普及活動では、年二回の美術講演会と講座、春と秋の美術映画会などが中心だが、美術ビデオ上映会や子どもを対象とした「ちびっ子美術館」のほか、「テレビセミナー」や、映画史上の名作を上映する「ミュージアム・シアター」などユニークな普及活動も行なわれている。またロビーおよび資料室では美術図書的一般開放(ロビーは常時、資料室は毎週水・土曜日の午後一時〜四時)を行なっている。

北海道立旭川美術館概要

所在地・旭川市常磐公園内
電話・〇二六六二五二五七七
開館時間・十時〜十七時
休館日・月曜日、祝日(五月五日、九月十五日、十一月三日は開館)、年末年始
入館料・一般二百五十円、高校生百五十円、小中学生百円
交通案内・旭川駅より旭川電軌バス「常磐公園前」下車
(北海道立旭川美術館
学芸課長・佐藤友哉)

◆道博協第三回役員会報告

- 日時・昭和61年10月25日
会場・札幌・雪印ホール
出席者・役員十六名(野村理事欠席)、事務局四名
議題および協議・報告事項
(一)6〜10月の経過報告
(二)第25回北見大会決算報告と報告書の作成について
(三)上半期の予算執行状況
(四)「北海道の博物館」等の出版について
(五)昭和62年度日博協大会の釧路市開催について
(六)昭和63年度北海道博物館大会の函館市開催について
(七)北海道イベント推進協議会加盟について
(八)第26回増毛大会の開催について
(九)その他
①学芸職員部会研修会の開催について
②「道博協ニュース」18号について
③「博物館研究」原稿執筆の協力について
④館園現況調査について
⑤会則の改正について

館 園 紹 介

札幌彫刻美術館

一九八〇（昭和五十五年）年二月十三日七十四歳で逝去する前年、札幌出身の彫刻家本郷新は、長年の夢であった彫刻美術館設立のため札幌市内宮の森にある一九七七（昭和五十二年）年に建てたアトリエ、ギャラリー、土地、作品等の寄贈を申し出た。これを受けた札幌市と北海道のはからいで、財団法人札幌彫刻美術館は、一九八一（昭和五十六）年六月二十九日遺族の見守るなか開館した。



（札幌彫刻美術館本館全景）



（札幌彫刻美術館記念館全景）

れた赤レンガ造りのアトリエ、ギャラリーを記念館とし、道路向いに「彫る」「刻む」のイメージで設計された白タイルの本館との二館に分かれている。常設展の場合は、本郷新の彫刻作品を中心に本郷新記念館各館内及び庭園に展示している。特に記念館には、その特性をいかし全国に野外設置されている作品の石膏原型あるいは写真パネルを通し、いながらにして本郷新制作の全国の作品を鑑賞できる。また、制作道具、生活用品や幼頃あるいは死ぬ数年前の写真パネルや直筆の書簡を展示し、彫刻家本郷新の人となりを感じとれる内容となっている。

収蔵作品の中心は本郷新であり、彫刻四百五十五点（内本郷新の作品三百九十五点）、絵画二百九十八点（内本郷新の作品二百十一点）、制作道具・生活用品、本郷新から寄贈された図書を収蔵している。絵画の中には、本郷新が収集したピカソのリトグラフ、あるいは北海道ゆかりの三岸好太郎の油彩画も含まれている。彫刻家本郷新は、生涯にわたり全国五十数ヶ所にモニュメント（記念像）彫刻と四百五十余点の彫刻作品を制作した。本郷新の彫刻の特徴は、社会と対峙する観点からの公共性・社会性を持ち、公共空間に調和したモニュマン性を志向するところにある。戦没学生記念像「わだつみのこえ」（立命館大学・当館他）をはじめ「泉の像」「札幌大通り公園」「嵐の中の母子像」（広島市平和公園他）、「氷雪の門」（稚内市）等戦後日本の社会環境に積極的に彫刻を提示していった。このように全国各



（本館前庭の「わだつみのこえ」）

地に設置されている本郷新の作品の一部は、石膏原型というかたちで当館に収蔵展示している。本郷新の彫刻作品は、野外彫刻にみられるようなビュームニステイクであると同時に、そのフォルムはあくまで美しく審美主義的であり、北海道開拓期に札幌で生まれ育った北道的なフロンティア精神にみちあふれ、モテイーフもその傾向が強い。札幌市円山あたりに住んでいた小学校四、五年生の頃、鶏をしっかりと胸に抱く少女に出会った記憶をもとに五十年後の一九六〇年代に十四点制作した「鳥を抱く女」シリーズ、あるいは一九七〇年中東戦争等の渦中で悲惨な状態に追いこまれた無辜なる民衆をモチーフにした「無辜の民」シリーズ十五点の作品などがある。この「無辜の民」シリーズの「虚われた人」は、現在約二メートルに拡大され石狩浜に設置されている。本郷新は材質的にもブロンズのほか木彫・石彫・テラコッタ・樹脂と様々な素材にとりくみ、終生意欲的な制作活動を続けた。

当館では、本郷新の常設展以外にも特別展として、「北の彫刻展」をはじめ過去二年間全国の公共空間に野外設置された彫刻の中から一点を本郷新賞として顕彰し、同時に記念展を開催するなどの事業を年二―三回開催している。また、友の会との共催で札幌市内や道内外にも足をのばした彫刻めぐりや美術館コンサートも実施し市民の好評を得ている。

《札幌彫刻美術館概要》

所在地・札幌市中央区宮の森
4条12丁目（二六四・五七九）
開館時間・10時～16時
休館日・月曜日、年末年始
入館料・一般200円、大学150円
小中学生100円

『網走管内博物館連絡協議会』三月三日に発足

昭和56年、網走市で開かれた第20回北海道博物館大会で、美幌町から網走管内のネットワーク化が提案され、59年の釧路大会でも管内の博物館の組織化と職員の研修体制づくりが提起されました。これを受けて、昭和60年に管内プロック代表による協議がなされ、連絡協議会設立検討委員会が設けられ、網走教育局、管内教育長会、社会教育専門部会、社会教育課長会議等の指導・協力・理解を得ながら準備が



すすめられてきました。設立総会は三月三日、北網圏北見文化センターで開かれ、15市町の22館・室が加盟し、会員相互の連絡提携をはかり、博物館事業の振興発展に寄与することを目的に発足しました。

会長には網走市教育長三代川幹夫氏が選ばれ、網走市立郷土博物館に事務局が置かれることになりました。総会の後、立教大学博物館学研究室講師佐々木朝登氏による記念講演も行なわれました。

昭和六十一年度

学芸職員部会研修会開催

今年度の道博協学芸職員部会の研修会は、昭和61年11月28日、旭川市立郷土博物館と東川町ホテルこまくさ荘で開かれました。「合同企画展の理論と実践」をテーマに、石川誠(土別市博物館)・安藤実(和寒町郷土館)・林耕輔(札幌市青少年科学館)・大柴惣寿(室蘭市民俗資料館)の諸氏が、道北地方博物館協議会や各館での実践をもとに発表・報告を行いました。

『北方民族シンポジウム』開かる

オホーツク国際流氷ロード網走実行委員会が網走市立郷土博物館創立50周年記念事業としてとりあげた標記シンポジウムが、昭和61年9月15日、17日の三日間、札幌市・北方圏センターと網走セントラルホテルを会場に開かれました。基本テーマは「北太平洋圏における海への適応」、サブテーマは「生態と環境」、「環境と文化」で、講師はカナダ・アメリカ・道内・道外など14名をかぞえ、参加者は人類の北方への適応についての理解を深めました。

新入会員

- 〈団体会員〉川村カネトアイ
- 又記念館(旭川市北門町十一丁目)
- 〈個人会員〉大橋永治
- 、内山善博
- 、和田英昭
- 、米村衛

- 、高橋永喜
- 、藤原康成
- 、新庄久志
- 、妻沼浩
- 、竹田輝雄
- 、遠田恭行
- 、松田守
- 、田川裕治
- 、堀繁久
- 、岩崎誠一
- 、松尾隆
- 、松田
- 、武田厚
- 、谷岡
- 、山下章
- 、古田信光
- 、川村カネト
- 、教育施設開発機構
- (札幌市白石区東五条三丁目)

◆道博協第四回役員会報告

- 日時・昭和62年3月28日
- 会場・札幌市雪印パーラー
- 出席者・役員十四名(山丸・北川副会長、工藤理事欠席。沢副会長は代理出席)事務局他五名、計十九名
- 議題および協議・報告事項
- (一)第三回役員会以後の経過報告について
- (二)昭和61年度事業報告について
- (三)昭和61年度会計収支決算見込みについて
- (四)昭和62年度事業計画(案)
- (五)昭和62年度取支予算(案)
- (六)第26回北海道博物館大会(6月12、13日)について
- (七)第35回全国博物館大会(10月6、7日釧路)について
- (八)会則の改正について(一部字句修正、会則施行細則廃止、63年度よりの負担金(会費)の値上げなど)
- (九)学芸職員部会シベリア・極東地区博物館視察研修(8月2、14日)の実施
- (十)昭和63年度の第27回北海道博物館大会の函館市開催要請(承認)について

事務局 日誌

- 61・6・18→19 第25回北海道博物館大会・昭和61年度道博協総会(北見市)
- 6・20 釧路市教委より昭和62年度全国博物館大会の釧路市開催の協力依頼状届く
- 6・21 アイヌ民族文化財専門職員等研修事業実行委員会(白老・アイヌ民族博)
- 6・24 道教育長に「補助事業等実績報告書」を提出
- 6・25 第25回大会礼状発送
- 6・28 アイヌ文化セミナー実行委打合せ(開拓記念館)
- 6・30→7・1 動物園・水族館技術者研修会(札幌)
- 7・5 秋季行事調査票発送
- 7・10 道教委より第25回大会補助金確定通知。日博協顕彰候補者申請を加盟41館園へ通知。北川芳男著「博物館とともに」30冊受贈
- 7・13 釧路市立博物館創立五十周年記念式典に道博協より北川副会長出席
- 7・29 道教育長に「社会教育事業(第25回全道博物館大会)報告書」を提出
- 8・5 第35回全国博物館大会の釧路市開催につき釧路市立博物館の澤館長来訪
- 8・7→9 昭和61年度アイヌ民族文化財専門職員等研修会「アイヌ文化セミナー」開催(白老中央公民館・アイヌ民族博物館)
- 8・9 日博協に昭和61年度顕彰候補者申請書を提出
- 8・12 開拓記念館講演会「兵馬俑と中国の文物」協賛
- 8・14 昭和63年度北海道博物館大会の函館市開催につき市立函館博物館より要望
- 8・18 北見市長宛「補助事業(第25回全道博物館大会)報告書」を提出
- 8・23 道博協賛助会員に教育施設開発機構が加入
- 9・3→4 科学館職員研修会開催(小樽市)
- 9・9 日博協支部長会議に中川会長出席(東京)
- 9・13 「学芸職員部会ニュース」No.17発行
- 9・17 網走市立郷土博物館創立50周年記念「北方民族文化シンポジウム」の開催につき高橋永喜館長来訪
- 9・25 日博協より「博物館研究」の執筆依頼。第三回役員会開催の案内状発送
- 9・30 中川会長出席による事務局会議開催
- 10・1 日博協加盟館園に「博物館研究」執筆依頼
- 10・7 「北方民族文化シンポジウム」開催につき網走市教委佐々木氏他来訪
- 10・8 昭和62年全国・全道博物館大会補助金交付資料作成。日博協顕彰者確定通知を開拓記念館・釧路市立博物館へ送付
- 10・14 道教委へ昭和62年全国・全道博物館大会の補助金交付申請書類を提出
- 10・15→17 「北方民族文化シンポジウム」札幌・網走市で開催(道博協共催)
- 10・22 道社会教育協会へ道博協概要資料送付。札幌市豊平川さけ科学館より日博協加盟について調査依頼
- 10・25 道博協第三回役員会
- 11・7 道教委へ全国・全道博物館大会の補助金交付申請追加資料を提出
- 11・13→14 第34回全国博物館大会開催(福岡市)
- 11・26 道社会教育協会評議員会に中川会長出席
- 11・28→29 学芸職員部会研修会を旭川市立郷土博物館、東川町・こまくさ荘で開催
- 12・9 昭和62年度の第26回北海道博物館大会開催につき増毛町役場で町長・教育長・公民館長等と打ち合せ(中川会長・関・中田)
- 12・12 「博物館研究」原稿(帯広百年記念館・市立函館博物館・夕張市石炭博物館)を日博協へ送付
- 12・26 中川会長「年頭あいさつ」原稿を日博協へ送付
- 62・1・7 第26回増毛大会日程につき学芸職員部会長・事務局長と打合せ
- 1・22 「角川日本地名大辞典」を道博協推せん図書に選定する件につき回答
- 1・25 「学芸職員部会ニュース」No.18発行
- 1・26 学芸職員部会長より「シベリア・極東地区博物館視察研修」の会長宛要望書を受理
- 1・27 札幌芸術の森へ道博協加入資料送付。岩内郷土館へ特別無料開館日を設定している館園、新冠町郷土資料館へ道内の博物館園数と学芸員数について回答
- 2・4→6 「博物館・郷土資料館等職員研修講座」道立教育研究所で開催
- 2・10 中川会長出席による事務局会議
- 2・26 道博協第四回役員会開催の案内状発送
- 3・3 網走管内博物館連絡協議会設立総会(北網園北見文化センター、関事務局長出席)
- 3・6 弥永北海道歴史館に道博協入会資料送付
- 3・7 昭和61年度に開館した博物館施設について日博協に回答。博物館等施設現況調査を再依頼
- 3・23 道立文書館へ道博協加入資料送付
- 3・25 「北海道における博物館園の現状と今後の課題」を発行
- 3・28 道博協第四回役員会。第27回全道博物館大会の函館市開催要望文書受理